

国際人口学会「イベント・ヒストリー分析」に関するセミナー

1988年3月14日から17日までフランスのパリにあるフランス国立人口研究所 (INED) で標記のセミナーが開催され、人口問題研究所から筆者(高橋)が出席した。

さて、イベント・ヒストリー分析は現在のところわが国においてはあまり馴染みのない分析方法である。これまで調査データの分析方法としては、重回帰分析等の多変量解析法を用いるのが一般的であったが、1980年代になってから回帰分析手法としてログ・リニア・モデルやプロポーション・ハザード・モデルなどの方法論的發展をみてきた。そして近年になり、それらが体系的に整備発展され、「イベント・ヒストリー分析」と称されるようになった。

今回のセミナーは、「イベント・ヒストリー分析」の方法に関する理論的検討と実際の人口分析への応用とその評価を目的としたものである。このセミナーには数多くのペーパーが提出されたが、セミナー自体は大きく分け三つのテーマで進められた。それらは、1. ハザード・モデルに対する分布関数の適合の問題、2. スウェーデンの調査データに基づく第3子出生分析への応用、3. 各種の人口現象分析への応用、である。なおセミナーにはプリンストン大学の James Trussell, German Rodriguez ならびにストックホルム大学の Jan Hoem を始めとして著名な人口学者が多数参加し、白熱した討議が行われた。このセミナーの成果は IUSSP (国際人口学会) より報告書として刊行される予定である。

(高橋重郷記)

国際人口学会 (IUSSP) 理事会

国際人口学会 International Union for the Scientific Study of Population の理事会 Council が国際人口学会本部のあるベルギーのリージュ Liege にて 1988年3月16日から18日まで開催された。国際人口学会理事の任期は 1985年から1989年まで4年間で、今回の理事会は第4回目ということになる。日本からは河野稠果所長が 1981年以後2期連続理事に当選しているので、今回の理事会に出席した。出席者は会長の William Brass 教授、副会長 Massimo Livi Bacci 教授をはじめ9人の理事と事務総長 Georges Tapinos 氏、それに事務局長 Bruno Remiche 氏である。今回は9人の理事全員が出席しているが、その名前はアルファベット順に、José Alberto Magno de Carvalho, M. A. El-Badry, Charlotte Höhn, 河野稠果, Geoffrey McNicoll, Roland Pressat, Samuel H. Preston, Jorge Somoza, Léon Tabak の各氏であった。

理事会の審議内容は多岐にわたるが、主なものは、(1) 役員の変更方法の改定、(2) 各種研究活動委員会の業績のレビューと評価、および来期 1989—93年における研究活動委員会の活動についての展望、(3) Population Studies (雑誌) 発行のコスト増大と国際人口学会会費の値上げ、さらに学会独自のジャーナルの発行の可能性、(4) 1989年10月開催の国際人口学会大会 (ニューデリー) への準備、および各種地域人口学会、特別セミナーの開催準備状況の検討、(5) fund raising 資金調達であった。ここで特筆すべきは、副会長、理事、事務総長の選挙が、これまでのように大会の際の総会で投票で行われるのではなく、大会の前に前もって全会員からの郵便投票で行われることに理事会は踏み切り、その実施スケジュールの検討に入ったことである。このため、会規の変更が行われることになったが、ここに国際人口学会は、サロンの性格、特にヨーロッパと北米の人口学者のフォーラムという性格からより世界的なものに脱皮したといえなくもなからう。

第2の点は既存の各種委員会、ワーキンググループの活動評価であり、将来展望である。現在9つの Committees と3つの Working Groups があるが、中でも死亡に関する委員会活動の評価は高く、出生力・家族計画委員会、経済人口学委員会と共に将来何等かの形で存続することが決まっている。死亡研究に関しては今まで乳幼児死亡に重点が置かれたが、今後は成人の死亡に関して重点を置かれるべきだとの要望が全理事の間で強かった。あと人口推計に関する研究活動は存続強化すべきという意見と、人口移動と都市化の委員会を復活させるべきという要望が採択された。

第3の点につき注釈を加えるならば、毎年会費が増額されているが、これは国際人口学会の機関誌とも言える、

London School of Economics 編集発行の Population Studies が経営不振で発行コストが上昇していることに主として起因している。すでに会費は年間 100ドル近くになっており、ここで来年さらに会費が上るならば、貧しい途上国や為替事情の非常に悪い東欧諸国の会員にとって会員たり続けることが困難になることが指摘されている。そこでこれ以上 Population Studies 発行のコストが上るならば、国際人口学会は Population Studies 以外に独自のジャーナルを発行することに踏み切り、Population Studies への負担を止めるべきとの意見が強かった。したがってもうしばらく Population Studies の成り行きを見守るが、最悪の時にはそれに代る新しい発表雑誌の創刊も考えられることになった。

(河野稠果記)

国際人口学会「アジアにおける出生力転換：多様性と変化」に関するセミナー

国際人口学会 (IUSSP) の出生力と家族計画の比較分析に関する委員会は、表記のセミナーをタイの首都バンコクのチュラロンコン大学において 1988年3月27日から31日にかけて開催した。本研究所から大谷憲司技官が同会議に出席する予定であったが病気のため欠席し、論文のみを提出した。会議の内容は以下の通りである。

Session I : Overview papers on the timing and the nature of the fertility transition in Asia

- The empirical evidence of fertility transition in Asia by Iqbal Alam and J. R. Rele
- Initial patterns of starting, stopping and spacing. Do these patterns affect the course of fertility decline ? by Peter McDonald

Session II : Regional Differentials within Large Asian Countries

Papers should emphasize interpretation, but another of their aims is also to document the differentials.

- Regional fertility differentials in India and their causes by K. Srinivasan
- Regional fertility differentials in China and their causes by Xizhe Peng
- Regional fertility differentials in Indonesia and their causes by Terence Hull and Sri Harijati Hatmadji

Session III : Cross National Differences

- Muslim fertility differences across countries by Sultan Ahmad and Lado Ruzicka
- Chinese sub-group fertility differences across countries by Zeng Yi & He Fenggin
- Ethnic fertility differences : a comparison of Singaporean and Malaysian experience by Saw Swee Hock
- Fertility transition in Asia : a perspective from seven cross-national micro-demographic studies by Ian Pool

Session IV : Country Studies on Social Change and Fertility

A. High Fertility

- Continuing high fertility in Bangladesh, Nepal and Pakistan and its causes by Iqbal Shah and John Cleland